

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年2月12日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690100393
法人名	医療法人 友志会
事業所名	グループホーム 良友
所在地	鹿児島県鹿児島市玉里団地二丁目5番1号 (電話) 099-229-8222
自己評価作成日	令和3年12月4日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和4年2月10日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1階に循環器内科クリニックがあり、平日は医師・看護師が在中している。クリニックは在宅療養支援診療所の届出をしており、良友の入居者様は月2回の訪問診療を受ける事が出来るため、御家族も安心して預けられると御意見をいただいている。

スタッフは地元住民を多く採用しており、落ち着いたケアサービスを提供している。

開放的な環境で雰囲気がよく、御家族にも来訪しやすく話しやすい関係性がある。遠方の御家族にも定期的にお越しいただけるなど交流を設けている。

1日30品目を心掛けた手作りの食事を提供し、御利用者の状態に応じて調理内容も工夫を行い、万遍なくお召し上がりいただけるようにしている。

入院・加療が必要になった際には、くわはたクリニック医師が地域の医療機関と連携を執り、移籍がスムーズに出来ている。退院後も検査や専門の治療を受けた専門機関との連携を通じ、くわはた主治医のもと引き続き健康管理やフォローを受け、安心して生活出来ている。

看取りを行っているため、重度化された際にも拠点を移す心配もいらず、人生の最期まで住み慣れた環境で過ごすことが出来ると安堵いただいている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは国道3号線から車で5分程入った玉里団地の中心部で、母体法人のクリニックの2階に位置している。近隣には医療機関・薬局・スーパー・金融機関・コンビニエンスストア等が立ち並び、傾斜のある住宅地の中で利便性にも眺望にも優れている。令和3年6月～8月に廊下・トイレ・居室のネーム板・照明器具等のリフォームが完了している。

利用者の意志を尊重して本人らしい生活スタイルを確立し、穏やかな雰囲気の中で地域や馴染みの人々との交流を大事にし、「目配り、気配り、心配り」をケアのモットーとして運営理念と共に掲げ、利用者・家族・職員・地域にとってのホームのあり方について意識しながら支援に努めている。また、管理者は職員間で何でも言い合える人間関係が構築されるように、時間を見つけて個別面談を行ったり、お互いを尊重し、気持ちよく長期間勤務してもらえる職場環境作りに取り組んでいる。そのため、日常のケアは和やかな雰囲気の中で利用者にも家族にも丁寧に対応できていると管理者は感じている。

利用者全員が法人母体のクリニックを主治医としており、定期受診や月2回の訪問診療・月1回の訪問歯科診療・訪問マッサージ等を受け、皮膚科は往診で対応可能となっている。夜間は事前に主治医の指示を得て職員が対応し、緊急時も主治医との医療連携体制が構築されているため、利用者・家族・職員の安心感に繋がっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	職員室に掲げ職員のネームプレートにも印字しており、いつでも確認出来るようにしている。理念に掲げる通り、御本人・御家族・地域が継続的に関係性を維持できるよう共同・協力しながら支援に努めている	利用者の思いや意思を尊重し、和やかな雰囲気の中で生活できる支援を目指して理念を掲げ、事務室や廊下等に掲示している。職員は毎日理念を意識してケアに臨み、ネームプレートにも明記して利用者の生活スタイルに沿ったケアの実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により積極的な交流を行うことは出来なかったが、コロナ対策を行ったうえで来訪者を受入れて話を職員が伺い、情報を得たりし、御利用者との会話に取入れた。ボランティアも受入れて支援をいただいた	町内会に加入し、民生委員や地域包括支援センターとの連携を十分に図って地域の情報を得るなど、可能な限り地域との円滑な交流に努めている。ボランティア(語り合い・作業の手伝い等)を受け入れたり、来年度は中学生の職場体験学習も予定している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	コロナ禍で交流の機会は大幅減ってはいたが、極力見学や介護相談を受入れて、取組の内容や御利用者の変化等のお話の機会を作っている。ボランティア参加も極力受入れて、御利用者の状況や良友を知っていただく機会に出来た		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍にあり少人数ではあったが、専門分野の方々からの話を伺う機会も多く、御意見やコロナ禍での情報などを得る事が出来、今後に活かせる内容のものとなった。	現在、他グループホームや介護保険施設・介護保険関連事業所と少人数で勉強会や意見交換等を実施しており、利用者・家族・地域の方々等を招集した会議は開催していない。サービスの向上に反映させることはできているが、今後は会議の目的を踏まえて充実を図るため、会議のあり方を検討したいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍で大変厳しい状況ではあったが、ボランティアや苦情相談等の専門分野の方々からの指導や御協力をいただける機会もあり運営に活かせる情報を得たり交流を得る機会もあった。	市の介護保険課や地域包括支援センターに出向いて相談することが多く、介護保険関係書類の手続きや利用者・運営に関する相談等に対して指導・助言をもらい、日頃から協力関係を築いている。市主催の研修会にもリモートで参加し、特に若手職員の育成に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どういうものが身体拘束に当たるのか、日常の何気ない行動や言葉などを振り返り、考え見直す機会を持つことが出来た。自分達で判断するに難しい事例は、福祉用具や他事業所、また専門職の方の意見も得たりしながら検討する機会を得られた	「身体的拘束等の適正化のための指針」及び「身体的拘束の排除のための取り組みに関するマニュアル」を作成し、運営推進会議出席者で構成する適正化委員会を定期的に開催している。日中は玄関の施錠は行わず、不適切な言葉遣いについてはミーティング等で検討し合い、利用者の見守りや寄り添い・対話等に努め、利用者が安全で自由な生活が送れるような支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待や拘束に当たるのか、常日頃からチームで話や検討する機会を設けケアの振り返りを行っている。職員と御利用者の関係性に気を配りフォローしたりストレスを溜め込まないよう業務改善等の見直しを行っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	財産管理等の手続きに必要な金融機関との連携等支援を御家族や御本人と考えたり、御家族同士の関係性等にも充分留意し支障が出ないように把握に努めている。多様化にあるので今後も皆で勉強の機会を作っていきたい		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に説明を行い入居時不安がないよう努めている。また随時電話でも受付しており、必要時は別紙で補うなど誤解のないよう工夫している。落ち着いた雰囲気です話ができるよう時間にはゆとりをもって対応している		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や御意見や御要望をいただいた際には上層部含め内容に応じて検討し取り入れる工夫や努力をしている。御意見について話合いの内容や結果を家族会でお伝えする機会を設けていたが、コロナ禍は文書で報告している。	利用者の思いや要望等は日常のケアの中で会話や表情等から把握に努め、うまく表現できない場合にも表情や家族からの情報等により把握できるように努めている。意見箱への投函はなく、面会や電話・メール等で直接伝える家族が多く、管理者としっかり向き合っていて話したい希望も見受けられる。出された意見等はミーティングや申し送り等で共有・検討し、サービスの向上に繋げるように努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	上層部も職員と面談する機会を設け、意見や要望や実態の把握に努め、職員一人一人の個性に応じ働きやすい環境を検討し整備に努めている。プライベートと仕事の両立ができるようにしている。	職員間では何でも言い合える人間関係が構築され、日常のケアも和やかな雰囲気です対応できており、管理者は安心して見守っている。法人の理事長や事務長の面談も実施し、管理者は時間を見つけて随時個別面談を行い、お互いに心配りし、気持ちよく長期間勤務してもらえる職場環境作りに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者に常日頃から話を伺い、また職員にも面談を個別に行い声を掛けたりし、状況把握に努め、能力や方向性に応じ昇給や研修の機会等提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>定期的に行われているクリニックの勉強会に参加の声掛けをいただいたり、年間を通して職員の能力や職種に応じた研修や勉強会の参加の機会を提供し、スキルアップのフォローに努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>上記同様クリニックの勉強会に参加したり、コロナ禍では地域や外来患者様の状況を共有し、法人全体で把握や認識を深めていた。外部専門家の方々と話す機会を設け、コロナ禍の情報を得ていた</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	上手く伝えられない方も多いため、御本人のこれまでの話を担当者や御家族から伺い現状を把握し、不安や不自由が生じないよう職員全体で行動やサインを察知し思いや希望を導き出せるようケア検討を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至るまでの間にも何度でも面談を行い、不安が残らぬよう御希望に応じすり合わせや環境整備に努めている。また日頃から御家族と話す機会を設け、御意見が言いやすい関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	特に環境変化に伴う精神への影響が一番の課題とするところであり、御家族と御本人の状況等を毎日話し合い検討を重ねながら慎重に進めている。必要時には面会の機会を多く設け、お互いの支援に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も御利用者の生活環境の一つであり一番身近で影響を与えやすいことを理解・自覚している。御利用者の行動や言動等から思いを引出し、思いに添った支援を心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今まで在宅で支えてきた経緯を尊重しやむなく入居となった今でも、お互いの絆を感じ安心出来るよう面会等で状況共有の場を設けたり、常に話を伺う機会を設け風通しの良い環境を提供している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍にあり外出はやむを得ず制限の状態にあったが、近親者のみでなく県内外含め馴染みのある方の面会を受入れ、これまでの関係が途切れないよう支援に努めた。	家族等から入居時に情報を得たり利用者との会話から趣味活動(習字、生け花、さつま狂句)など、馴染みの環境について情報を得ている。友人からの電話や手紙の取り次ぎ、行きつけの美容室・歯科医院など、馴染みの関係が途切れないような支援に努めている。家族との面会はパーテーション越しに10分以内で自由に実施できている。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	寝たきりにはせず参加の機会を設けている。洗濯物を畳み居室まで届けたり、お食事の声掛け等の協力をいただく等、互いの状況を理解し気遣いされ、出来ることを皆で支え協力する関係が出来ている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	御逝去後も近隣の方の入居相談や紹介をいただいたり、遺族から一緒に働きたいと入職希望があり雇用に繋がったケースもあった。また遺族へ入居中の写真を送付したりし、相互に支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御家族の意向や情報を聴き、御利用者の行動に添って思いを導き出し検討し合い柔軟に対応している。個別性も多様化にあるので実践と検討を繰り返し、望む生活となるよう努めている	普段の会話を通して意思疎通できる利用者が多く、話しやすい職員に伝えていく。利用者の思いは意志がはっきりしている場合には行動や言葉として表現されるため、生活歴等の背景を考慮しながらその思いを大切にしようと努めて支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしの経過や歴史等、背景を含めて御利用者的人格や人柄、今の状態に繋がっていると認識し、御家族含めエピソードや習慣などを伺いケアのヒントを得ることが出来ている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	高齢者は廃人ではなく、これまでの歴史の中で培ってきた経緯があり、強さもあると日々感じている。また潜在的な能力を引き出せるよう触発したり表出の機会をつくり発展している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の経過や状態の変化やサインを皆で共有把握し、今必要なケアや支援を検討し合い、実践と評価を繰り返しながら導き出している。また御利用者状況の原因や根拠を探る視点を養えるよう質問したりして琢磨している	利用者及び家族の意向や希望を把握し、主治医の指示・前施設からの情報等を踏まえ、入居時・1か月後・2か月後、と利用者の状況を確認しながら本人主体の個別的な介護計画を作成している。原則6か月毎に作成するが、利用者・家族の思いやケアの変化、利用者の状態変化等に応じて計画を見直し、現状に即した介護計画となるように努めている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	原因や根拠を探れるよう具体的な指標となるよう記録にも工夫が必要と感じている。具体性が明確となるよう備考欄等を活かして状況が伝わりやすいようにしている。気付きが得られるよう送りなどで補足している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍でもあり御家族が受診が不安な時には職員だけで対応したり、身体が不自由で来苑が厳しい方へは自宅まで必要な手続きや物品を受取に行ったりとニーズに合わせて柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	身体に障害を抱える御家族の支援者にお支払いや物品の搬送等、また御利用者に関しての相談事等を行い、一緒に御家族毎、支援の対象として御協力いただく事が出来ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	循環器クリニック併設なので御利用者も御家族も安心している。状況次第では他医療機関との連携を主治医や看護師が行っており、早期対応やフォローもいただくことが出来ている。	利用者全員が法人母体の協力医療機関を主治医としており、定期受診や月2回の訪問診療・月1回の訪問歯科診療・訪問マッサージ等を受け、皮膚科は往診で対応可能となっている。夜間は事前に主治医の指示を得て職員が対応し、緊急時も主治医との医療連携体制が構築されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>医療面やケアの相談や、主治医への取次等も常日頃から協力いただく事が出来ており、話しやすい関係にあるので職員も安心して働くことが出来ている。薬局の薬剤師も内服相談に応じて下さりケアに活かしている</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>コロナ禍にあり情報把握が御家族でも困難な中、担当者との電話や窓口対応で連携をとれ情報のやり取りが行う事が出来ている。コロナ以前には入院をした際は寂しい思いをせぬよう定期的にお見舞いに行くなど支援を継続して行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>状況を常日頃から御家族へも把握していただいている。重症化した場合にも変化を常に連絡し、主治医を含め方向性や意思確認を行い問合せしやすい関係を作り一緒に支援しているので、馴染みある環境で安心して最期を迎える事が出来ている。</p>	<p>「重度化した場合における対応及び看取りに関する指針」を整備し、利用者及び家族に対して入居時・必要時は随時説明し、同意を得ている。これまでもホームで看取りの経験があり、デスカンファや反省・思いを語る等を通して職員間でできることを模索し、検討を重ね、可能な限りホームで支援に努めるというケアの体制を構築している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>御利用者の病状や既往、服用している薬などを把握している。事故や緊急時にはすぐに管理者へ報告し必要時には主治医へ判断・指示を仰ぎながら早期に連携して対応している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>建物が鉄筋であり土砂水害地区ではないので、火災以外は外へ避難せず建物内にとどまるよう訓練している。消防署の協力を得て、年2回夜間発生も想定した火災訓練を実施している</p>	<p>風水害・地震・火災に対する災害計画を作成し、消防署や消防設備業者の協力を得て年2回、火災訓練を実施している。ホームの建物は鉄筋L字型で倒壊しにくいため地域の避難場所にもなっており、地震訓練でシュミレーションを行っている。スプリンクラー・自動通報装置・防火扉等が設置され、連絡網は電話・メールで対応している。ホームでは米・パスタ・缶詰・水等の食品を備蓄し、懐中電灯等も準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生や誇り、性格、精神面等、個性にも配慮し周囲へ漏れないような態度や声掛けに気を付けながら接している。またチームメンバーで振り返りやカンファレンスを行い実践に繋げている	利用者の思いを大事に、表情や仕草・行動・反応等をキャッチして、利用者の人格や尊厳に配慮した支援に努めている。利用者に関する職員間の会話は本人のいない場所で、居室の入口はカーテンで仕切り、トイレ誘導は小さな声で、などに配慮し、不適切なケアについてミーティングで話し合って改善に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	上手く伝えられない方も多いため、その日々の行動やサインに気を付け思いを探りカンファレンスや申送りで検討し合うなど、その方を尊重した支援が出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	あくまでも御利用者の生活の場であり意志があることの認識を持ち、その方が主体的に取組判断出来るよう、自分達の立ち位置や声掛け・態度に気を付けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	季節や気温・天気などを考慮し、御家族の話参考に趣味嗜好を取入れてコーディネートしている。必要時は助言等で支援している。毎日のスキンケアや化粧の時間も大事にしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食の好みを熟知し、体調や疾患、状況に即した食事内容を提供している。1日30品の食材を利用し手作りを提供している。御家族から野菜等の提供もあり活用している。	利用者の嗜好や心身の状態・食事形態・栄養バランス等に配慮し、1日30品目の摂取を目指して調理担当職員が食事を作り、職員も一緒に同じ食事を食べている。行事食やおやつも作り、調理レク(桜餅、金柑漬け等)では利用者が発揮できる能力に応じて参加して楽しめるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好み等お一人お一人に応じて提供内容や形態・盛付等を考慮し摂取量が充分確保出来るよう取り組んでいる。時間を考慮したり回数に分けたり嗜好品等を取り入れるなど工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の指導を受けながら、舌ブラシやスポンジ等その方の状態に応じた道具を利用しケアに努めている。歯科往診で歯科医師から専門的にみていただきお口の健康を守っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	パターンに応じてタイミングや使用するおむつのタイプを検討している。羞恥心に配慮し声掛けに気を遣い進めている。個人の能力や機能に応じて手段は様々であり、定期的に評価し状況変化に添い対応している。	利用者毎の排泄パターンを把握し、可能な限り日中はトイレでの排泄を支援している。利用者の状況に応じてケアの方法や介護用品を介護計画に位置づけて取り組んでおり、ホールへ出入りする際にはトイレ誘導するようにしている。便秘予防には乳製品・食物繊維・水分等の摂取、廊下の歩行運動等を実践し、改善されるように取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	安易に薬に頼るのではなく食事や水分摂取量を把握し、活動量を観ながら促しを行っている。かみ合わせや咀嚼状況も確認し、職員とも日々の状態に応じて都度考慮しその方に必要としている対応を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	お一人お一人の体力や体調・意向を確認し対応している。皮膚ケアが必要な方は回数を増やしたり、御希望に添い柔軟に対応している。	入浴は週2回、午前中に個浴で実施しているが、皮膚疾患等の場合や必要に応じて柔軟に対応している。石鹸やシャンプー等は共用で、入浴剤は使用せずお茶パックを利用している。入浴後は保湿剤の使用やお茶・コーヒー・ジュース等の水分摂取にも配慮して支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体力や耐久性、御意向に応じ、寝たきりや閉じ籠りとならぬよう参加の機会を設けリズムを作っている。照明やカーテン等気を配り、寂しい方へは簡易ベッドでホール見守りしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬には体調を左右する大事で重篤なものであるという認識を持ち医者の指示の元で適切な用法用量を守り支援を行っている。服薬迄の間に7項目の確認事項を守り、間違いが起きないように努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員の援助を受け、作品作りで機能維持に繋がる取組を個別で取入れたり、嗜好に応じて余暇時間を楽しめるよう、懐かしの歌を唄ったりCDで音楽を聴く等して脳活性や回想・癒し等が得られている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍にあり外出は控えた機関であった。御利用者が退屈を感じたりストレスとならぬよう、職員のスキップや会話等で気分転換出来るよう楽しく過ごす工夫を行った。また御家族の面会もコロナ対策を行った上で定期的にお越しいただき、精神支援に御協力いただく事が出来た	これまでは近隣の散歩や買い物・花見・外食・イベントへの参加等、できる限り楽しく外出できていたが、現在は病院への通院や自宅への外泊等のみ支援できている。利用者にとって外出が難しくなり、ホーム内でレクリエーション・花瓶作り・音読・童謡・CDで歌を聴く・歩行訓練等を工夫して実施し、リフレッシュを図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>コロナ感染症に対する御理解も得られ、買物も職員が御要望を伺い購入した。鍵の掛かる保管場所を確認して頂いたり、御家族から預金を受取る際にも御本人の立合いを行い、金銭帳と現金と照合する等して不安や誤解のないよう努めた。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>海外に住む御家族もコロナで帰省が出来なかったため、電話による定期的な支援をいただき、会話出来る環境を整えている。また御自身では手紙を書く事は出来ないが、御家族からの手紙や葉書が届いた時には読んで差し上げている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>昼夜の照明を変えたり、季節の花や植物などを各所に飾り、彩や癒しで演出している。感染症予防のため定期的に換気を行い新鮮な空気を取り入れている。テレビや音楽のボリュームも調整し、皆が同じ環境でも不快にならぬよう配慮している。厨房の煮炊きの音や匂い等も一つの生活感の効果を得ている。</p>	<p>ホームは母体クリニックの2階に位置し、エレベーターで玄関に入ると面会用のスペースが準備されている。広い廊下やホールは明るく、手作りカレンダーや利用者の作品・季節に応じた飾り・観葉植物等が置かれ、オゾン除菌機の設置や定時換気により環境にも配慮されて過ごしやすい空間となっている。台所からは調理の音や匂いが感じられ、家庭的な雰囲気の中で穏やかに過ごせるように工夫されている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>コロナ禍で対面にならぬようにしており、適度な距離感を保ち気の合う方や視覚聴覚等に応じて場所の配置を行っている。読み物や書き物をしたりテレビを楽しんで寛いだり出来るよう、調整している。寂しい思いをせぬよう御様子を察知し、必要に応じて支援や対応を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族旅行の写真や思い出やお祝いの品などを飾り、愛犬に似ているぬいぐるみ等と一緒に寝たりして絆が感じられるよう配慮している。趣味作品を飾り、その方らしさを演出している。</p>	<p>居室は眺めの良い腰高窓でフローリングとなっており、エアコン・タンス・ベッド・床頭台・洗面台が備えられている。利用者は馴染みの茶碗・ポット・写真・テレビ・布団等を自由に持ち込み、自宅と同じように居心地よく安心して過ごせるように支援している。平常時には、面会に来訪する家族の中にはペットを連れてくる方もあり、癒しの時間となっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室やトイレ等の場所を把握出来るよう花や絵のプレートで解りやすく覚えやすいようにしている。必要時にはドアに飾りを付けたり、目印になる備品で方向が解るように声掛けや助言を行い、個々の能力に合わせて環境整備や支援を行っている。</p>		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
		○	3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない